

## わが国のGX実現に向けて

国際環境経済研究所理事

東北大学特任教授

U3 イノベーションズ合同会社共同代表

竹内純子

### 【分野別投資促進策について】

#### ● 産業全体の将来像を

投資促進策の原則に加えて、分野別投資戦略の議論が具体的に進展していることは、極めて重要な進捗であると考えます。しかし一方で、**あくまでも各分野の「技術支援策」に留まっている**という印象です。**重要なことは、ここから産業がどのように発展していくかの将来像を描くこと**だと考えます。

例えば自動車に関しては、製造工程や製品の低炭素化・脱炭素化に加えて、**カーシェアやデジタル化による移動の減少・自動運転化**などの変化も起こり得ます。台風災害等で送電網が被害を受けた場合に電動車で電気を運ぶことは既に行われていますが、**電動車の蓄電池を結節点として、電気事業と自動車産業が融合**していくこともあり得るかもしれません。

例えば電気事業に関しては、再生可能エネルギーや原子力など出力調整の難しい脱炭素エネルギーが主力になっていくので、**調整性の高い需要**（例：AI学習／ビットコイン・マイニング事業／陸上養殖）を取り込み、それらと絡み合いながら拡大していく可能性もあるでしょう。GX基本方針でも、再生可能エネルギーの受け入れを拡大するために送電網の整備が謳われていますが、稼働率が低い再生可能エネルギーを運ぶための送電線は当然低稼働率となります。デジタル情報を伝送する光ファイバーケーブルは、電力ケーブルに比べて二桁断面積が小さく、敷設が非常に容易なので、電気の産地でデータを演算加工してから運ぶ方が合理的です。

また、差別化要素の無い価格競争に陥っている電気の小売り事業は、家電製品を媒介として、**顧客体験を提供するサービスに溶け込んで消失**する可能性もあるでしょう。

GXは、こうした「産業革命」の契機となるべきものであり、かつ、GXはDXと融合して、「社会変革」となっていくことが期待されます。

大きく変わる将来像を政府が描くということは極めて困難で官民の協力が必要ですが、適宜軌道修正を図りつつ、解像度をあげていくことを前提に、**国民に伝わりやすいイメージとしての将来像**を描くことをお願いしたいと思います。

## 【GX・DXを支える“人づくり改革”】

幅広い技術の迅速な社会実装に向けた担い手として、スタートアップ支援策が盛り込まれたことは大きな前進だと考えます。わが国では未だ Global Cleantech 100 に選出されるスタートアップが生まれていない状況ではありますが、COP28で初めて特設された Start-up Village には、米国やフランスと並ぶ10社が参加し、現地でも高い評価を得ていました。しかし今後、よりスタートアップが多く生まれ、グローバル市場を目指して切磋琢磨して成長する環境を創出するには、**数多くの種を蒔くことが必要**です。

**基礎研究も含めた大学研究予算の配分や手続きの簡素化、文理分断から脱却し技術の社会実装を統合的に進められる高等教育、未来を創出する独創性・自立性・多様性を認める初等・中等教育など、“人づくりの改革”が不可欠**です。

また、GXによる新しい技術を社会に実装するにあたっては、デジタル技術の活用を前提として、その**保安や安全規制を合理化・適正化し、限られた人材が「すべき仕事をする」ように設計**することが求められます。**GXの技術が実装される5年後、10年後には今以上に人材不足が深刻な状況になっていることを前提とした制度を構築**していただくことを期待いたします。

## 【GXに関する国内外での発信】

前回のGX実行会議において伊藤環境大臣からお示しいただいたように、G7諸国の中で削減目標に対して軌道に乗っているのは日本と英国のみです。COPなどの国際交渉の場では、より高い野心を表明した国が評価される傾向にありますが、実際に削減を進めていることが理解されると、一定の評価がされることも実感しました。

**他国の産業界の方からわが国のGXは高い関心を持たれている一方、残念ながらその詳細がわからないといった声もあった**ことから、国民理解に加えて海外への英語での発信により一層尽力いただくことをお願いしたいと思います。